

札幌の発展と共に ～狸小路140周年

札幌の発展と共に歩み続けてきた「狸小路」。通りの両側には北海道でも最古の商店街が軒を連ね、市民の生活の中心として愛されてきました。

今月号では140周年を迎えた狸小路の歴史を振り返るとともに、これからの狸小路について関係する方々にお話しいただきます。



▲鈴蘭灯輝く4丁目の夜景（昭和12年）
（足立伊佐武氏提供）



◀札幌狸小路商店街振興組合のマスコットキャラクター「だっこボン」

写真 札幌狸小路商店街振興組合、札幌市公文書館所蔵
詳細 総務企画課広聴係 ☎205-3216

略年表

- （昭和3） 1928年 2〜4丁目、6丁目に鈴蘭灯を設置。
- （昭和2） 1927年 狸小路市場（南3西6）が開業。5丁目が町内14カ所に最初の鈴蘭灯を設置。
- （大正5） 1916年 3丁目が町内3カ所に横断街灯を設置。



▲札幌初の活動写真常設館「神田館」



▲大正時代の2丁目

1900年代

（明治45） 1912年 札幌初の活動写真常設館・神田館（南3西4）が開業。

（明治25） 1892年 札幌大火。全市の約5分の1が焼失し、狸小路も大きな被害を受けた。

（明治18） 1885年 札幌初の勸工場・第一勸工場（南2西3）が開業。※勸工場：商品の陳列卸売場。現在のスーパーマーケットやデパートに近い役割を果たしていた（「かんこぼ」とも呼ばれる）。

呼び名の由来は？

「狸小路」の呼び名の由来については「辺り一面がアシ原で、本物の狸が住んでいたから」など諸説ありますが、明治6、7年ごろ、2丁目に「東座」という芝居小屋が建ち、それをきっかけに一杯酒の店が増加。そこに巧みに酔客の財布の底をたたかせる「白首」と呼ばれる女性が現れるようになって、その人々の別称「狸」が呼び名になったという説が現在までのところ通説となっています。

1800年代

（明治6） 1873年 このころ南3西2、3に商家、飲食店などが建ち「狸小路」と呼ばれるようになる。

わたしの狸小路（2）

～西創成第7町内会 長谷川興生会長

（八光書房）

狸小路の思い出

狸小路は子どものころの遊び場でした。一番の思い出は「狸まつり」。狸の模様の入った浴衣を買ってもらい、丁目ごとに踊りの練習をしました。お盆のころには9丁目通りに櫓が建って、ものすごい人出でした。

現在の狸小路について

狸小路西側は、時には狸小路の発展から取り残されたとの声も聞きますが、昭和の佇まいが残り、

札幌の貴重な財産になっていると思います。それがいいと言って若い人たちもたくさん集まっています。

にぎわいのあるまちに向けて

8丁目は、歩道設置工事によって、通常より明るい、意匠性（デザイン性）のある街灯になり、段差の少ない歩道が付いたことで「安全で明るいから」とわざわざこの通りを歩く人も増えてきました。

この地域を「狸小路西界隈」と呼んで、中小路なども含めて面として発展できればいいと考えています。そうならば、地域コミュニティも広がり、例えば地域での高齢者の見守りなどもできて、安全・安心なまちがつけられるのではないかと思います。



▲安全・安心な歩道になりました



▲狸まつりの浴衣（昭和30年代前半、長谷川氏所蔵）